

昭										年	才一二八師団兵器勤務隊略歴	
20												月
8	8	8	8	8	7	6	5	5	5			
27	20	17	16	13	10	1	15	31	1	略	略	
<p>軍令陸甲第七五号により編成下令 牡丹江省東寧県城子溝において編成完結 (第一二八師団司令部兵器勤務班を基幹とし五月十七日在満応召の編入者をもつて編成) 同日より同地において勤務 主力は間島省汪清県羅子溝に移駐し、陣地構築。 一部は城子溝に残留 主力は汪清県張家店に移駐 主力は大興溝に移駐 城子溝残留隊は主力に合流 大興溝において「ソ」軍と交戦 主力は同地において武装解除 同地出発 金蒼收容所に收容</p>										略	略	
										摘要		

		至	自	至	自	至	自
		10	9	9	9	9	8
		10	26	18	15	15	30
				隊長 中尉 柳沢 竜吉		金倉第六一作業大隊 (大尉 岩谷好成) 金倉第五九作業大隊 (大尉 田辺正夫) 金倉出発 暉春經由入「ソ」 に編入	

至 自											昭	年	月	日	才 一 二 八 師 団 病 馬 廠 略 歴
											20				
10	9	9	9	8	8	8	8	8	6	4	1				
10	26	15	15	19	18	17	13	9	上旬	10	16	日			
<p>                     軍令陸甲第九号により編成下令                      牡丹江省東寧泉城子溝において編成完結                      同日より同地において病馬の収療                      間島省汪清泉羅子溝に移駐し病馬の収療                      日「ソ」開戦                      「ソ」軍の攻撃により転進のため同地出発                      主力は樺皮甸子に集結                      同地において武装解除                      一部は張家店において武装解除                      金蒼収容所において合流                      主力は金蒼第五九作業大隊（大尉田辺正夫）に編入                      同地出発                      琿春經由入「ソ」                 </p>											略		歴		
											略			歴	
											略		摘		
											略		要		

		9	9	9
		20	13	3
				一部は金萱収容所より間島収容所に移動
				間島第一四作業大隊（見士星野芳夫）に編入
				間島出発
				瑠春経由入「ソ」
				廠長
				獣医大尉 石井賢一郎

昭 20		年		月		日		略	歴	摘 要
至	自									
9	7	9	7	8	7	8	7	<p>通称号 奮戦第三七五二三部隊 奮戦第三七五二三部隊</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 牡丹江省東寧県東綏において編成完結 (第一国境守備隊司令部(東寧旅団司令部)よりの転入者(復帰による)をもつて編成) 同日より国境警備 主力は日「ソ」開戦にともない問島省大喊廠に転進のため同地出発 一部は同地残留 問島省大喊廠着。同陣地守備 「ソ」軍と交戦 主力は同地において武装解除 大喊廠出発、東京城に向かう。 東京城収容所に収容 東京城第二六八作業大隊(大尉岡村清英)に編入</p>		
2	28	9	10	1	28	30	10			





		至 自		至 自	
		11	11	10	9
		7	3	20	30
				8	1
				19	18
		<p>同地出発</p> <p>琿春經由入「ソ」</p> <p>将校は、間島将校収容所に収容</p> <p>間島将校第一大隊（大佐谷岩蔵）に編入</p> <p>同地出発</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>大隊長</p> <p>大尉 斉藤俊治</p>			



										昭 20	年	
										7	7	月
										28	10	日
<p>同日より国境守備</p> <p>(大城子南溝、南天山、要山等に配備)</p> <p>日「ソ」開戦にともない主力は、三角山に集結し大城廠に転進のため同地出発。</p> <p>途中「ソ」軍の攻撃をうけ一部は別行動となつた。</p> <p>一部は各陣地に残留</p> <p>主力は大城廠着</p> <p>老夏家着。同地において武装解除</p> <p>東京城収容所に収容</p> <p>東京城第二六四作業大隊(大尉大森寅)に編入</p> <p>同地出発</p>										<p>略</p> <p>略</p>		<p>略</p> <p>略</p>
										<p>摘要</p>		

## 独立歩兵才七八四大隊略歴

通称号 奮戦第三七五二五部隊

至 自				至 自				昭 20	
10	10	9	9	9	8	8	8	8	9
25	1	15	7	4	23	11	10	18	17
<p>           綏芬河經由入「ソ」            各陣地残留隊の行動            残留隊は「ソ」軍の攻撃をうけ四散し、各小行動群に別れた。            その一部は大臈廠において主力に合流            その他の者は東寧より大臈廠に転進途中「ソ」軍の攻撃により別行動となった。            その一部は間島省汪清県汪清において武装解除            間島収容所に収容            間島第三作業大隊（少尉国井義孝）に編入            同地出発            琿春經由入「ソ」            隊長            大尉 大森 寅         </p>									

						昭 20	年						
						7	7						
						28	10						
8	8	8	8	7	7	月	日						
18	14	12	9	28	10	日							
<p>東寧に残留した寺島小隊は大喊廠に到着し主力に合流</p> <p>主力は大喊廠着</p> <p>「ソ」軍戦車の攻撃をうけ、分散し、それぞれ大喊廠に向つて転進</p> <p>主力は金鳥山着</p> <p>寺島一ヶ小隊は、同陣地に残留</p> <p>かう。</p> <p>同日夕刻より、主力は後方に転進のため同陣地出発。城子溝を経て金鳥山に向</p> <p>地に復帰し全力をもつて陣地の守備</p> <p>同日より国境警備</p> <p>日「ソ」開戦にともない、東門、高安村、南高安村の各国境監視哨は、主力陣</p> <p>地に復帰し全力をもつて陣地の守備</p> <p>同日夕刻より、主力は後方に転進のため同陣地出発。城子溝を経て金鳥山に向</p> <p>かう。</p> <p>寺島一ヶ小隊は、同陣地に残留</p> <p>主力は金鳥山着</p> <p>「ソ」軍戦車の攻撃をうけ、分散し、それぞれ大喊廠に向つて転進</p> <p>主力は大喊廠着</p> <p>東寧に残留した寺島小隊は大喊廠に到着し主力に合流</p>						<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>牡丹江省東寧県東綏において編成完結</p> <p>(第一国境守備第三地区隊(東寧旅団歩兵連隊第三大隊)よりの転入者(復帰による)をもつて編成)</p> <p>同日より国境警備</p>		略	略	略	略	略	略
						摘要							

## 独立歩兵才七八五大隊略歴

通称号 奮戦第三七五二六部隊

略

略

摘要

	10	9	9	9	9	9	8	8	8
	8	19	18	9	17	8	30	22	19
	<p>同地出発</p> <p>老夏家着。同地において武装解除をうけ、老夏家↓老峯嶺↓天橋嶺を経て東京城着</p> <p>主力は東京城第二六四作業大隊（大尉大森寅）に編入</p> <p>同地出発</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p> <p>金島山において分散した部隊の一部は、伊林↓穆稜↓寧安↓東京城を經由</p> <p>間島省汪清着。同地において武装解除をうけ、金蒼收容所に收容</p> <p>金蒼第五作業大隊（大尉千田喜勝）に編入</p> <p>同地出発</p> <p>琿春經由入「ソ」</p> <p>大隊長</p> <p>大尉 柴田常吉</p>								

昭 20		年		独立歩兵才七八六大隊略歴
7 7		月		
28 10		日		
至	自	至	自	通称号 奮戦第三七五二七部隊  軍令陸甲第一〇六号により編成下令 牡丹江省東寧県東綏において編成完結 (第一国境守備第四地区隊(東寧旅団歩兵連隊第四大隊)よりの転入者(復帰による)をもつて編成) 同日より国境警備 (郭亮船口、勾玉陣地に配備) 日「ソ」開戦にともない第一三二旅団主力の大喊廠に転進を掩護し、同陣地において「ソ」軍と交戦、東寧重砲兵連隊第六中隊(定光中尉以下約百名)および第一三二旅団挺進大隊の残留隊は、大隊長の指揮下に入りこの戦闘において多大の損害をうけた。 陣地を脱出したものの主力は本部駐屯の鏡ヶ岡に集結。 転進のため同地出発 東寧において武装解除後、金萱收容所に收容された。
9 8	8 8	8 8	8 8	
2 30	29 20	20 9	28 10	
				略 歴
				摘要

2126



										昭 20	年			
										7	7	月		
										10	28	7	7	日
9	9	8	8	8	8	8	8	8	7	7	略	独立混成才一三二旅団挺進大隊略歴 通称号 奮戦第三七五二八部隊		
17	8	30	29	15		10	9	28	10	略	歴			
軍令陸甲第一〇六号により編成下令 牡丹江省東寧県石門子において編成完結 同日より国境警備 日「ソ」開戦にともない東寧三角山陣地において「ソ」軍と戦闘、多大の損害をうけた。 主力は後方の大喊廠に転進のため、同地出発。途中「ソ」軍の攻撃により、多大の損害をうけ山中を分散行動となり、大喊廠に向かう。 一部（第三中隊）は、独立歩兵第七八三大隊長の指揮下に入り東寧に残留。 主力は大喊着。同地において再び「ソ」軍の攻撃をうけ後方に転進 東京城において武装解除をうけ、同地の収容所に収容された。 東京城第二六四作業大隊（大尉大森寅）に編入 同地出発 綏芬河經由入「ソ」												略	歴	
												摘		
												要		

至 自
10 9 9 8 8
1 27 19 30 27
<p>東寧残留隊は、同地において武装解除をうけ、金蒼収容所に収容  金蒼第五六作業大隊（中尉竹下百馬）に編入  同地出発  瑋春経由入「ソ」</p> <p>大隊長  大尉 齊藤健太郎</p>



昭 20										年	月	日	略	歴	要
至 自															
9	8	8	8	8	8	8	8	7	7						
3	30	22	21	15	13	10	9	28	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 牡丹江省東寧県東綏において編成完結 (東寧旅団通信隊よりの転入者(復帰による)をもつて編成) 同日より同地の警備および通信連絡業務 日「ソ」開戦にともない三角山陣地に配備 第一三二旅団主力とともに、後方に転進のため同地出発 途中「ソ」軍の進入により分散行動となり大喊廠に向かう。 大喊廠着。同地の陣地守備 同地出発 老夏家着。同地において武装解除をうけ天橋嶺を經由東京城に向かう。 東京城収容所に収容 同日東京城第二六五作業大隊(大尉河野浩一)に編入 東京城出発	独立混成才一三二旅団通信隊略歴 通称号 奮戦第三七五三二部隊				
										略	歴	要			

	9
	14
	綏芬河經由入「ソ」 隊長 中尉 蓮輪隆雄

至 自					昭 20	年	独立混成才一三二旅団砲兵隊略歴 通称号 奮戦第三七五二九部隊	
9	8	8	8	8	7	7		略 歴
3	30	25	22	14	28	10		
<p>同日より同地の警備</p> <p>日「ソ」開戦にともない三角山、勾玉、勝関等の各陣地に配備</p> <p>主力は、同夜旅団主力とともに後方に転進のため同地出発</p> <p>途中「ソ」軍の攻撃を受け、旅団主力と別れ大喊廠に向かう。</p> <p>一部は東寧陣地に残留</p> <p>主力は大喊廠に到着。</p> <p>老夏家着。同地において武装解除をうけ、東京城収容所に収容</p> <p>東京城第二六五作業大隊（大尉河野浩一）に編入</p> <p>同地出発</p>					<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>牡丹江省東寧県大坡子南溝において編成完結</p> <p>（第一国境守備隊砲兵隊（東寧旅団砲兵隊）よりの転入者（復帰による）をもつて編成）</p>			

	10	9	9	8	9
	8	19	18	3	27
	<p>大尉 河野 浩一</p> <p>隊 長</p> <p>瑋春經由入「ソ」</p> <p>同地出発</p> <p>金蒼第五作業大隊（大尉千田喜勝）に編入</p> <p>金蒼収容所に収容</p> <p>東寧残留隊は、東寧において武装解除</p> <p>綏芬河經由入「ソ」</p>				

至 自		昭 20	年						
9	9	8	8	7	7	月			
14	3	30	23	19	11	9	28	10	日
<p>通称号 奮戦第三七五三一部隊</p> <p>独立混成才一三二旅団工兵隊略歴</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 牡丹江省東寧県東綏において編成完結 (第一国境守備隊の各地区隊工兵隊(東寧旅団工兵隊)よりの転入者(復帰に よる)をもつて編成) 同日より同地国境警備 日「ソ」開戦にともない全員三角山陣地に配備し「ソ」軍の攻撃をうけた。 同夜後方に転進のため同陣地出発。旅団主力とともに転進中「ソ」軍の攻撃を うけ各自大喊廠に向かう。 大喊廠着。同地区の陣地を守備したが、「ソ」軍の進入により後方に転進 東京城および老夏家において武装解除をうけ東京城収容所に収容 東京城第二六五作業大隊(大尉河野浩一)に編入 同地出発 綏芬河經由入「ソ」</p>									
摘要									



至 自		昭 20	年
8	8 8	8	7
21	15 13	6	10
<p>通称号 奮戦第三七五三三部隊</p> <p>独立混成才一三二旅団輜重隊略歴</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 牡丹江省東寧県大城子南溝において編成完結。 第一国境守備隊 独立混成第八〇旅団輜重隊 輜重兵第一二三連隊 輜重兵第三一九連隊 第一六野戦自動車廠 よりの転入者をもつて編成</p> <p>同日より同地の警備および彈薬資材の輸送。 日「ソ」開戦にともない東寧重砲兵連隊の守備陣地暖泉子溝に移駐。 「ソ」軍の進入により転進のため同地出発。途中「ソ」軍の攻撃により分散行動となり大喊廠に向かう。 主力は大喊廠着。陣地構築資材の輸送。 同地出発。</p>			
			摘 要

		9	9	8 8
		14	3	30 22
	大尉 松本 勇一	隊 長	綾芬河經由入「ソ」。	老夏家着。同地において武装解除をうけ天橋嶺を經由。 東京城収容所に収容。 同日東京城第二六五作業大隊（大尉河野浩二）に編入。 東京城出発。



至自						昭 20	年 月 日	概 要	摘 要
86 下旬	6 15	6 5	5 18	5 17	3 10	2 6			
本部 威鏡北道羅南	つぎの各地において陣地構築					<p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、閔東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）  一部は間島省図們に移駐、同地の警備</p> <p>一部は南陽において野戦倉庫開設</p> <p>独立山砲兵第二〇連隊編成担任</p> <p>仙台師管区よりの応召兵編入</p> <p>入者を基幹として（改編）編成完結</p> <p>師団の残置者をもつて留守第一九師団が編成され、この留守第一九師団よりの転入者を基幹として（改編）編成完結</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p> <p>朝鮮威鏡北道羅南において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された第一九師団の残置者をもつて留守第一九師団が編成され、この留守第一九師団よりの転入者を基幹として（改編）編成完結</p>			

## 第七九師司令部略歴

通称号 奏第二一五一部隊

9	9	8	11	10	8	同	8	8	7	7
8	2	27	11	20	21	日	17	9	下旬	
<p>司令官 中将 太田 貞 昌</p> <p>             9月8日 毘春経由入「ソ」              9月2日 同地出發              8月27日 下士官兵は、間島第二五作業大隊に編入              11月11日 同地出發、毘春経由入「ソ」              10月20日 将校は、将校第二大隊に編入              8月21日 同地出發、間島収容所に収容              同日 囚們において武装解除              8月17日 南陽に集結              8月9日 日「ソ」開戦              7月下旬 噴進砲第一、第二中隊を編成              7月 第一三七師団編成担任              一部 威鏡北道南陽              一部 〃 慶源              一部 〃 雲霧嶺              一部 間島省 囚們         </p>										

							昭 20	年 月 日	概 要	摘 要
7	7	6	5	4	3	2				
14	7	15	17	15	7	6				
<p>連隊本部……………咸鏡北道南陽</p> <p>第一大隊……………豊利</p> <p>第二〃……………南陽</p>							<p>軍令陸甲第二一〇号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において歩兵第七三連隊補充隊よりの転入者を基幹として編成完結、同日より同地付近の警備</p> <p>歩兵第一六連隊補充隊（東部二三部隊新発田）より応召兵編入</p> <p>仙台師管区歩兵第四連隊（東部二二部隊）より応召兵編入</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）</p> <p>陣地構築のため羅南出発</p> <p>つぎのように分散、各地において陣地構築</p>			

歩兵第二八九連隊略歴

通称号 奏第二二一五二部隊

至自 至自 至自											
10	9	9	9	8	11	11	10	8	8	8	8
23	8	16	2	13	27	15	11	20	22	18	16
<p>第三大隊……………間島省琿春県図們 日「ソ」開戦</p> <p>第三大隊は、対「ソ」戦に備えて豊利と南陽の中間に前進したが交戦しなかつた。</p> <p>停戦命令受領</p> <p>図們に集結のため各陣地出發、同日図們着、同地において武装解除</p> <p>將校、下士官兵に区分されて間島收容所に收容</p> <p>將校は間島將校第二大隊に編入</p> <p>同地出發</p> <p>満洲里經由入「ソ」</p> <p>下士官兵は間島第一、第一二、第二二、第二五、第三二各作業大隊に編入</p> <p>同地出發</p> <p>琿春經由入「ソ」</p> <p>朝鮮人を開戦直前に召集して教育中日「ソ」開戦となり、武解時解散、自由行動となる。</p> <p>連隊長 大佐 松山圭助</p>											

							昭 20	年 月 日	概 要
6	6	5	5	4	4	3	2		
下旬	15	20	5	15	7	10	6		
<p>一部は先鋒隊として鐘城に移駐し陣地構築</p> <p>下)</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る。(第三軍司令官の隷下)</p> <p>仙台師管区歩兵補充隊より応召兵の編入</p> <p>歩兵第三七五連隊の編成担任</p> <p>歩兵第一六連隊補充隊(新発田)より応召兵編入</p> <p>大邱師管区歩兵第二補充隊の編成担任</p> <p>成完結、同日より同付近の警備</p> <p>朝鮮咸鏡北道会寧において歩兵第七五連隊補充隊よりの転入者を基幹として編成</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p>									
									摘要

## 歩兵第二九〇連隊略歴

通称号 奏第二一一五三部隊

概

要

摘要

2142

7	5	<p>一 一号演習により、会寧出發、左のとおり各地において陣地構築  連隊本部 …………… 朝鮮鐘城  一大隊 …………… 朝鮮蒼坪  二大隊の主力 …………… 問島省 卬春 厚地坪  二大隊の一部 …………… “ 三陽谷  三大隊 “ 朝鮮鐘城  問島省 卬春 五竜洞</p>
8	9	<p>一 部（経理関係）は朝鮮鐘関に移駐  その他の一部は会寧に残留し教育訓練  日「ソ」開戦にともない連隊本部は鐘城より厚地坪に移駐し陣地守備</p>
8	16	<p>師団司令部より停戦命令を受領  主力は厚地坪出發、同日凶們着</p>
同日	19	<p>凶們において武装解除  一部朝鮮鐘関にあつたものは主力に合流することなく南下し、茂山、会寧方面</p>

至自	至自	至自									
11 9	9 9	9 8	8	11	11	10	8	8	8	8	
20 21	15 12	5 28	21	15	11	20	20	19	18	17	
連隊長 大佐 今堀元貞	琿春經由入「ソ」	同地出發	間島第一八、第二二、第二三各作業大隊に編入	下士官兵は、延吉第二八收容所に收容	満洲里經由入「ソ」	同地出發	間島將校第二大隊に編入	將校と下士官兵に区分され、將校は延吉第六四六收容所に收容	主力に合流	間島省凶們着、同地で武装解除	一部朝鮮着坪にあつたものは、同地出發
											に向つて分散行動

歩兵第二九一連隊略歴

通称号 奏第二一一五四部隊

年月日	概要	摘要
昭和20年 2月 8日	軍令陸甲第二一号により編成下令	
3月 10日	朝鮮咸鏡北道羅南において歩兵第七六連隊補充隊よりの転入者を基幹として編成完結(改編)、同日より同地付近の警備	
4月 15日	歩兵第一六連隊補充隊(東部第二三部隊新発田)より応召兵編入	
5月 20日	仙台師管区歩兵連隊より応召兵編入	
6月 15日	朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る(第三軍司令官の隷下)	
6月 30日	現地応召者(朝鮮人多く含む)編入	
7月 7日	陣地構築のため羅南出発	
7月 14日	つぎのとおり分散、各地において陣地構築	
	連隊本部……………咸鏡北道慶源西方月明山	
	第一大隊……………雲霧嶺	
	第二大隊……………月明山・馬乳山	
	第三大隊……………古茂山付近西上	



至自				至自							
8	10 9	9 9	9 8	同	8	8	8 8	8	8	7	
15	23 20	15 18	3 30	日	19	17	16 12	9	5		
羅南の残留隊同地出発				収容				同隊編成完結			
暹春經由入「ソ」				南陽出發、間島省暹春県函們着、同地において武装解除をうけ、延吉収容所に				日「ソ」開戦にともない各陣地の守備にあたり古茂山にあつた第三大隊は騎兵			
同地出発				主力は、南陽に集結、一部のものおよび鮮系は自由行動をとつた。				第七九連隊長の指揮下に入る。			
間島第二、第二一、第三二各作業大隊に編入				馬乳山陣地において「ソ」軍の進入のため、多大の損害を生じた。				歩兵第三七六連隊編成担任			
同地出発				停戦命令受領				一部(約一五〇名)は羅南に残留			



昭 20										年 月 日	概 要	摘 要
8	8	8	8	8	8	6	5		3			
10	13	12	11	10	9	15	17		10	6		
<p>西上着</p> <p>主力をもつて雄基方面に搜索のため出発</p> <p>古茂山着、同地の警備</p> <p>主力は羅南出発、富寧↓舞袖着、さきに古茂山に先発の部隊を掌握</p> <p>一部は古茂山付近に前進</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、閔東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）</p> <p>仙台師管区（東部第三七部隊）よりの応召兵編入</p> <p>編成完結、同日より同地付近の警備</p> <p>索第一九連隊補充隊が編成され、この部隊よりの転入者を基幹として（改編）</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された搜索第一九連隊の残置者と、仙台師管区（東部第二五部隊）よりの編入者をもつて捜</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p>												

騎兵第七九連隊略歴

通称号 奏第二一一五六部隊

												至自 至自				
												昭 21	昭 20	昭 21		
												10	8	8	8	8
												25	21	20	20	19
												<p>主力は、西上、一部は、古茂山において武装解除                      富寧収容所に収容、将校と下士官兵に区分される。                      将校は間島収容所に収容され、間島将校第一大隊に編入                      同地出發                      満洲里經由入「ソ」                      下士官兵は富寧出發古茂山着                      主力は古茂山第八作業大隊に編入                      同地出發                      琿春經由入「ソ」                      下士官兵の一部は古茂山第三作業大隊に編入                      古茂山出發、清津着、同地で作業                      興南に移動                      平壤に移動                      洪儀經由入「ソ」</p>				
												<p>連隊長                      中佐 稲波弘次</p>				

										昭 20	年 月 日	概 要	摘 要
10	8	8	8	8	7	6	5	3	2				
20	23	17	15	9	下旬	15	17	10	6				
<p>将校は、間島将校第二大隊に編入</p> <p>間島収容所に、将校、下士官兵に区分され収容</p> <p>凶們において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦にともない間島省暉春県凶們に移動し、同地の警備</p> <p>移駐のため羅南出発、同日雲霧嶺着、同地において陣地構築</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）</p> <p>仙台師管区より応召兵の編入</p> <p>師団の残置者を基幹として編成完結、同日より同地の警備</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された第一九</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p>													

## 第七九師団制毒隊略歴

通称号 奏第二一一六三部隊

		9	9	11
		下旬	13	初
		卯春経由入「ソ」	同地出発	下士官兵は、間島第一六作業大隊に編入
	隊長			卯春経由入「ソ」
	中尉			
	少尉			
	鈴木			
	武			
	佐々木			
	富士夫			

昭 20							年 月 日	概 要
7	6	6	5	4	3	2		
7	15	10	17		10	6		<p>山砲兵第七九連隊略歴</p> <p>通称号 奏第二一一五八部隊</p>
<p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下） 陣地構築のため羅南出発つぎのとおり分散、各地の歩兵部隊に配属、陣地構築</p> <p>連 隊 本 部 …… 咸鏡北道潼関</p> <p>第一大隊の主力 …… 豊利</p> <p>の 一 部 …… 蒼坪、雲霧嶺</p>								<p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において山砲兵第二五連隊補充隊よりの転入者を基幹として 編成完結、同日より同地の警備</p> <p>羅南師管区砲兵補充隊編成担任</p> <p>仙台師管区砲兵補充隊（東部第二七部隊）より応召兵約四〇〇名編入</p> <p>朝鮮人約一七〇名編入</p>
								摘 要

至自		至自						
9 8	8	8 8	8	8	8	8	8	7
8 30	20	19 18	17	16	13	9	5	27
<p>下士官兵は、間島第二、第七、第三二各作業大隊に編入</p> <p>間島収容所に収容将校と下士官兵に区分された。</p> <p>および朝鮮人は自由行動となつた。</p>		<p>主力は各陣地出発、間島省凶們に集結武装解除をうけたが、この際一部のもの</p> <p>および朝鮮人は自由行動となつた。</p> <p>間島収容所に収容将校と下士官兵に区分された。</p> <p>下士官兵は、間島第二、第七、第三二各作業大隊に編入</p>						
		<p>停戦命令受領</p> <p>途中混乱のため西上において第四中隊に合流</p> <p>羅南残留隊は、本部に追及するため同地出発</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>同隊編成完結</p> <p>野砲兵第一三七連隊編成担任</p> <p>一部（約三〇〇名朝鮮人を含む）は羅南において教育、訓練、警備を実施</p> <p>の 一部 …… 威鏡北道古茂山北方西上</p> <p>第二大隊の主力 …… ” ” ”</p> <p>第一大隊の一部 …… 間島省暉春厚子坪</p>						



30603

		至自		至自	
		11	11	10	9 9
		15	11	20	23 19 15 13
		連隊長	同地出發	將校は將校第二大隊に編入	同地出發
		中佐			
		成川			
		一郎			

2154

		年月日		概	要	摘要
昭20		7	6			
		7 上旬	6 15	5 17	3 7	2 6
<p>軍令陸甲第二一〇号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道会寧において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された工兵第一九連隊の残置者をもつて工兵第一九連隊補充隊が編成され、この部隊よりの転入者を基幹として編成完結、同日より同地の警備</p> <p>仙台師管区よりの応召兵編入</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）</p> <p>移駐のため会寧出発</p> <p>つぎのとおり、各地において陣地構築</p> <p>連隊本部 ……咸鏡北道水口浦</p> <p>第一中隊主力 ……間島省図們</p> <p>一部 ……咸鏡北道雲霧嶺</p>						

## 工兵第七九連隊略歴

通称号 奏第二一〇部隊

至自		至自		至自		至自	
99	98	8	8	8	8	88	7
15	13	3	23	19	18	16	15
同地出発		間島第二、第一〇、第二三、第三二各作業大隊に分散編入		その他の者は、図們に集結、同地において武装解除後間島収容所に収容		名は自決、自決不参加者は自由行動により南下	
		第三中隊は深溝洞に集結し、自決組と自決不参加組に分れ、中隊長以下三〇数名は自決、自決不参加者は自由行動により南下		部隊長以下数名の将校は、同地において自決		その大部分は、部隊をはなれ、自由行動により南下	
		連隊本部、第二中隊は水口浦に集結		停戦		日「ソ」開戦にともない図們地区警備のため図們に移駐	
		各駐屯地出発、威鏡北道茂山に移駐、同地付近の陣地構築		器材小隊		威鏡北道	
		第三中隊		間島省琿春県深溝洞		第二中隊	
		威鏡北道訓戒					

79 P

本村太郎

80703

至自

10 9

23 20

璵春経由入「ソ」

自由行動により南下したものの大部は、昭和二十一年「コロ」島および朝鮮経  
由帰還しており、また一部は北鮮において武装解除をうけ、古茂山収容所に収  
容され、與南経由入「ソ」したものである。

連隊長

少佐 本村 太郎

2157

至自		昭 20	年月日	概 要	摘 要			
8	8	8				7	7	6
17	15	9	12	3	25	15	10	6
<p>部隊移駐のため羅南出発 間島省琿春県図們に移駐、同地の司令部を中心として、各隊と通信連絡、陣地構築</p> <p>日「ソ」開戦 停戦</p> <p>図們に集結、同地において武装解除をうけた後間島収容所に収容され、将校、</p>		<p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道羅南において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された第十九師団通信隊の残置者と、仙台師管区（東部第三十部隊）よりの編入者をもつて留守第十九師団通信隊が編成され、この部隊よりの転入者を基幹として編成完結、同日より同地付近の警備</p> <p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）</p> <p>現地応召者の編入</p>						

第七九師団通信隊略歴

通称号 奏第二一一六一部隊

昭 21											
6	6	6	5	10	9	9	9	11	11	10	
15	14	2	30	25	20	18	初	15	11	20	
<p>下士官兵に区分される。</p> <p>将校は間島将校第二大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>毘春經由入「ソ」</p> <p>下士官兵の主力は間島第一六作業大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>毘春經由入「ソ」</p> <p>下士官兵の一部は間島収容所より古茂山収容所に移動</p> <p>古茂山出発</p> <p>興南着</p> <p>興南出発</p> <p>「ボセット」上陸入「ソ」</p>											
<p>隊長</p> <p>大尉 井上四郎</p>											

至自		昭 20	年 月 日	概 要	
77	6	3			2
15	15	10			6
<p>朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下） 陣地構築のため鏡城出發、つぎの通り各地に分駐し、資材、糧秣、兵器の輸送に任じた。</p> <p>本 部 …… 咸鏡北道南陽</p> <p>第一中隊 …… 咸鏡北道厚子坪、水口浦、石建坪、 閔達鐘城</p> <p>第二中隊主力 …… 閔島省珥春県凶們</p> <p>一部 …… 咸鏡北道慶源</p>				<p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p> <p>朝鮮咸鏡北道鏡城において昭和十九年十一月「ルソン」島に転用された輜重兵第一九連隊の残置者をもつて輜重兵第一九連隊補充隊が編成され、この部隊よりの転入者を基幹として編成完結、同日より同地付近の警備</p> <p>仙台師管区輜重兵第二連隊より応召兵編入</p> <p>朝鮮人約二〇〇名編入</p>	
				摘 要	

輜重兵第七九連隊略歴

通称号 奏第二一一六一部隊

至自	至自	至自															
10 9	9 9	9 8	11	11	10	8	8	8	8	8	8						
2 20	14 13	8 30	15	11	20	20	18	17	15	9							
隊長	少佐	遠藤卓次	瑛春經由入「ソ」	同地出發	下士官兵は間島第一〇作業大隊に編入	同地出發	瑛春經由入「ソ」	同地出發	同地において武装解除をうけ、間島に向け出發	間島着、將校と下士官兵に区分され、それぞれの収容所に収容	將校は、將校第二大隊に編入	同地出發	間島省凶們に集結	停戦	日「ソ」開戦	第三中隊主力……凶們	一部……潼関



						年月日	概要				
						昭和20					
8	7	7	6	3	2		第七九師団兵器勤務隊略歴 通称号 奏第二二二六四部隊				
9	14	13	15	10	6						
日「ソ」開戦	「」訓戒	威鏡北道馬乳山	間島省琿春県図們	羅南着、つぎのとおり各地において陣地構築	主力は、第一一号演習のため羅南出發	一部は、鮮満国境陣地構築のため師団内の各隊に配属された。	朝鮮軍司令官の隷下を脱し、関東軍司令官の隷下に入る（第三軍司令官の隷下）	朝鮮威鏡北道羅南において編成完結、同日より同地の普備および師団各隊の兵器の修理	軍令陸甲第二一号により編成下令		摘要

	9	9	8	11	11	10	8	8	8	8
	8	2	27		11	20	21	19	17	15
	陣春經由入「ソ」	同地出發	下士官兵は、間島第二五作業大隊に編入	陣春經由入「ソ」	同地出發	將校は、間島將校第二大隊に編入	間島收容所着、將校、下士官兵に区分され收容	間島省凶們に集結、同地出發	各駐屯地において武装解除後各地出發	停戦
隊長										
大尉										
鈴木惣志										